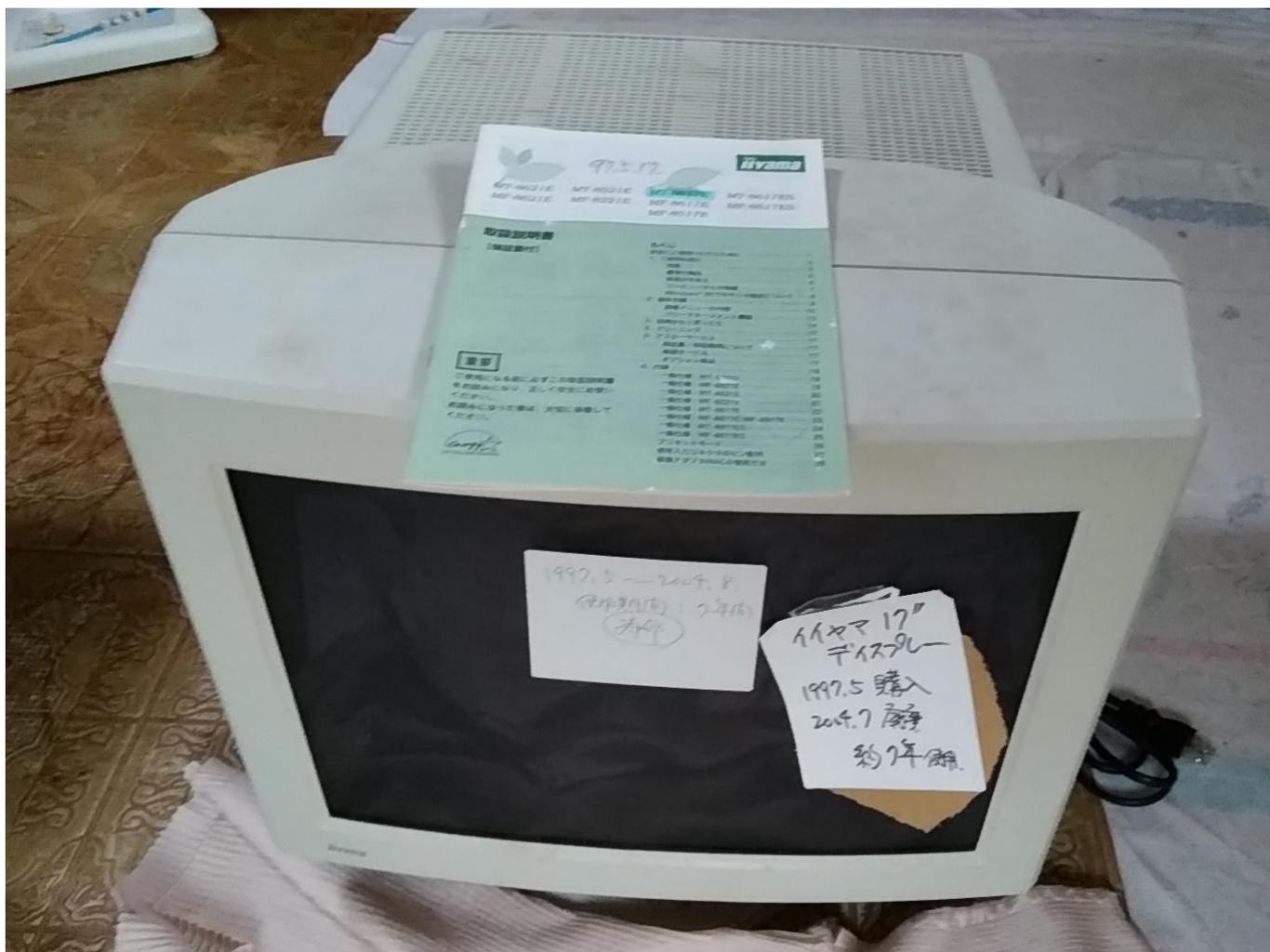
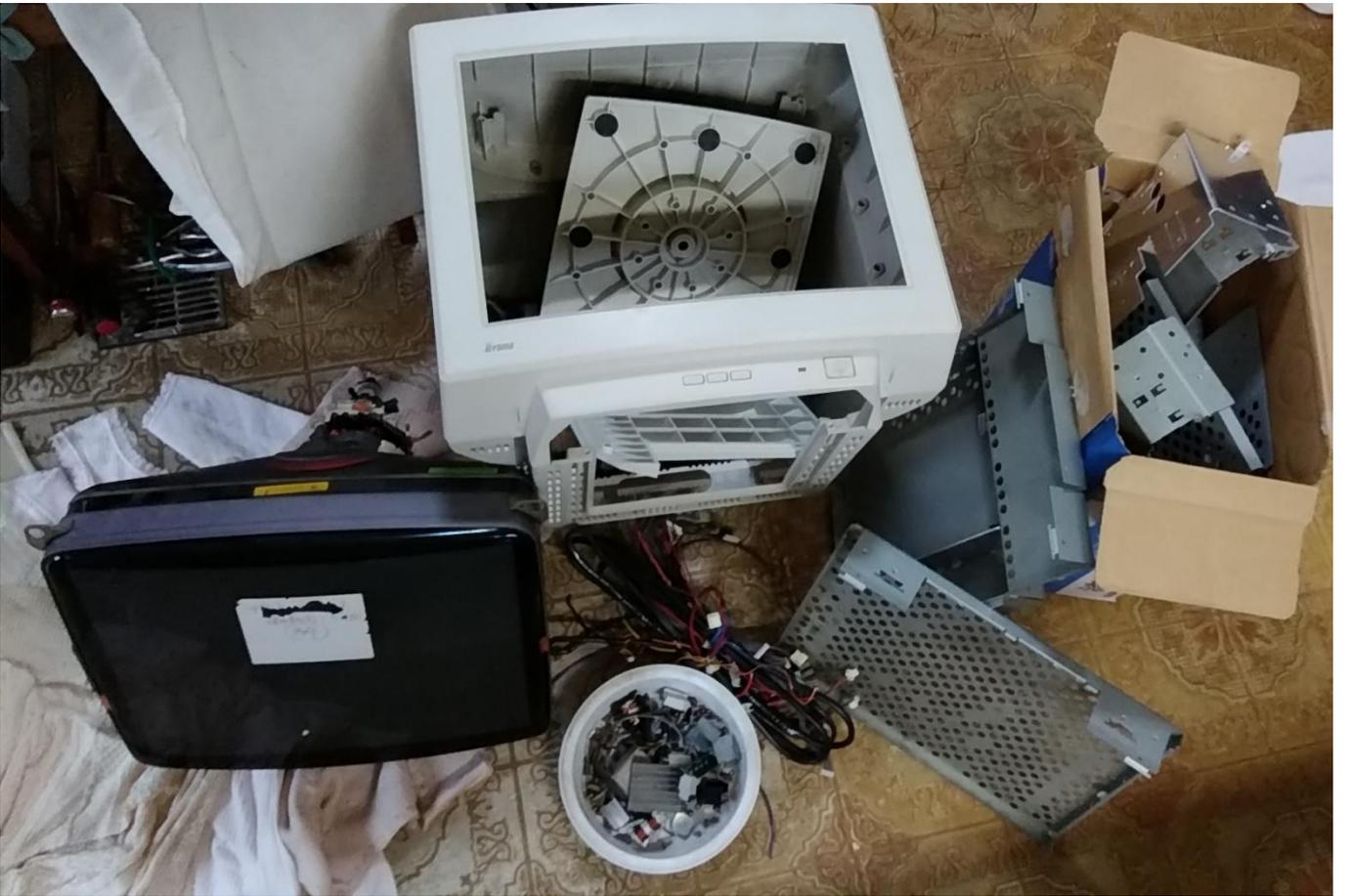


飯山17インチディスプレイ解体(1997年5月~2004年7月まで7年間使用)





ガラス製のディスプレイ部とビーム部は鉄棒で接合されていた。
一般的には結合と分解が容易なネジ類で行われるが、ガラスを直接金属締結できないので別の方法で接合している。鉄棒もネジ類ではなく溶接構造であった。
この解体方法を検討するため、しばらく間を置いた。
締結部材を緩めて解体することが困難であると判断し、7月末、破壊することにした。

ガラスが飛散すると危険なので、古着を何枚も重ねて覆い、その上からハンマーで叩く。
壊れたガラスを見ると、特性と強度の関係かも知れないが、部位によって厚さが微妙に変化していた。
すなわち、ディスプレイの厚みは約5mm、ビーム管部は2～3mm、鉄棒との接合部は約10mmと分厚くなっていた。

割れたガラスを拾いながら驚いたのは、ガラスは簡単にははがせないほど強力に結合していた。
鉄棒との接合部分は高い機密性が求められるので当然ではある。
ビーム管とディスプレイを強固に接合するため、強力な接着剤が使用されており、これを剥がすのは至難であった。



これで「単なるガラス」として、資源ごみ処理できる(#^.^#)